

道徳科学習指導案

平成29年2月7日（火） 第3校時（3の2教室）3年2組 指導者

I 主 題 みんなで使う物だから

II 考 察

1 主題観

(1) 育まれる主な資質・能力とその関係

(3) 学びに向かう力・人間性等
社会のきまりを守ろうとする態度

(1) 知識・理解
社会のきまりを守ることについての理解

(2) 思考力・判断力・表現力
社会のきまりを守ることについての自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 主として集団や社会との関わりに関すること
12 規則の尊重〔第3年及び第4学年〕
約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「規則の尊重」の内容項目のうち、公共物の利用に関わり、社会集団における様々な人の立場に立ち、きまりを守ることの大切さについて考える学習である。その価値は次のとおりである。

公共物を利用する際には、社会集団の一員として、自分と同じように社会生活を営む周囲の人のことを考え、きまりを守ることが大切である。なぜなら、一人一人が周囲の人の立場に立ち、きまりを守って公共物を利用することにより、みんなが気持ちよく良好な社会生活を営むことができ、社会集団の維持・向上へとつながるからである。しかし、その一方で、自分本位な考えからきまりの内容を知りながらも守らなかったり、きまりの意義を理解せず形式的にきまりを守っていたりすることがある。だからこそ、社会集団における様々な人の立場に立って、きまりを守っていかうとする態度を養うことが大切となる。

子どもたちは、身の回りの生活の中には、図書館の蔵書や児童館の遊び道具などといった誰でも利用可能な物があり、きまりを守って利用をしてくれている。しかし、公共物であることを知りながらも、自分の都合を優先し、他の利用者のことを考えずに利用している子どもも見られる。このような子どもたちが、公共物の利用に関わり、社会集団における様々な人の立場に立ち、きまりを守ることの大切さについて考えることは、社会のきまりを守ろうとする態度を養うことにつながる。

そこで教材「黄色いかさ」（東京書籍）を使用する。教材の内容及び価値は次のとおりである。

駅で貸し出している黄色い傘があることを知った大助は、雨の日はその傘を借りる。数日経っ

でも傘を返さない大助は、母親から早く返すように注意をされるが、何となく話をはぐらかしてしまう。その翌日、駅で雨に困惑するおばあさんを見かけて話しかけたとき、駅に1本もかさがないことを知り、大助はおばあさんに待っているように伝え、急いで走り出すという内容である。

子どもたちは、自分の都合を優先してきまりを守らず傘を返さなかったことが、他の人の迷惑になることに気付く主人公の姿から、社会集団における様々な人の立場に立ち、きまりを守ることの大切さについて考えることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「かっこいいって」での、互いに気持ちよく生活できるように自分本位の行動をしないことのよさについて考える学習に発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、3年「みんなで使う場所だから」において、使う人の気持ちを考えて公共の場をきれいに使うことの大切さについて考える学習をしてきた。この学習で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、以下のとおりである。

- (1) 使う人の気持ちを考えて、公共の場所をきれいに使うことで、みんなが気持ちよく生活できることを理解してきている。このような子どもたちが、周囲の様々な人の立場に立ち、きまりを守って生活することで、一人一人が良好な社会生活を営み、社会集団が維持・向上していくことを理解できるように、周囲の人々が気持ちよく過ごすための公共物の利用の仕方を問う課題を設定する。
- (2) 公共の場所をきれいに使うことについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができる。このような子どもたちが、周囲の人の立場に立ち、きまりを守ることについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、おばあさん、おばあさん以外の傘を使いたいと思った人の視点を提示し、様々な人の立場や気持ちを基に、きまりを守ることの大切さについて考えたことを話し合う場を設定する。
- (3) よりよい生活を送るために、公共の場所をきれいに使って生活しようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、周囲の人の立場に立ち、きまりを守っていこうとする態度を養えるように、学習したことを基にこれからの自分の生き方について記述する学習プリントを用意する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 周囲の人々が気持ちよく過ごすための公共物の利用の仕方について、おばあさんやおばあさん以外の傘を使いたいと思った人の立場から話し合うことを通して、周囲の人々の立場に立ち、きまりを守ることの大切さに気づき、実践しようとする態度を養う。
- 2 準備 場面絵 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 公共物を利用する際に気を付けていることについて発表し合い、教材から、課題「おばあさんのように困る人がいなくなるためには、大助はどのように傘を借りるとよかったのだろう。」をつかむ。	○公共物の利用に関わってきまりを守ることに對する自分の考えを自覚できるように、公共物を利用する際に気を付けていることを問いかける。 ○教材「黄色いかさ」での公共物の利用について

・みんなで使う物だから、使った後はちゃんと返すようにしているよ。

・大助は傘を返さないから、大切に使う気持ちが足りないと思うな。

・自分と違って、早く返さなくても困る人はいないと思って、返さなかったと思うよ。

2 課題の解決に向けて話し合う。

・傘を返さなくて傘がなくなってしまったのだから、ちゃんと返せばいいと思うよ。

・たしかに、みんなが使う傘は返せばよいのではなく、他の人が困らないように次の日に返すことが大切だな。

・おばあさんは傘がなくて困ったと思うし、傘を使いたかった他の人の中には、濡れながら帰って困った人もいたかもしれないな。みんなの気持ちも考えると、その日のうちにすぐに返さなければいけないのかもしれないな。

・みんなが気持ちよく過ごせるように、借りた日に返したいけど、理由があって無理なときもあるのではないかな。

・いつまでに返すというきまりはなくても、いろいろな理由があるのは誰でも同じだから、みんなで使う物はできる限り早く返す方がいいな。周りの人のことも考えて、きまりを守ることが大切だと思うよ。

3 自己の生き方を振り返り、これからの自己の生き方について発表し合う。

・メディアルームや図書館で借りられる本もみんなが使うものだな。

・借りた本を大切に読んだり、期日をしっかりと守って返すことができていたな。次に借りようとした人は、楽しみにしていた本が戻ってきて喜んでいたかもしれないな。

・今まで以上に自分の後に使う人の気持ちを考えて、一人一人がきまりを守って生活すれば、みんなが気持ちよく過ごせるはずだから、やっぱりきまりを守る気持ちが大切なのだな。いろいろなきまりがあるけど、自分はしっかりと守っていききたいな。

の主人公の行為を把握できるように、教材を読み、主人公の傘の借り方を問いかける。

○周囲の人が気持ちよく過ごすための公共物の利用の仕方について、問題意識をもてるように、自分の考えと主人公の行為との共通点や相違点とその理由を問いかける。

○課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、それぞれが考えたことを発表するよう促す。

○一人一人のきまりを守る際の他者意識の違いに気付けるように、子どもたちが考える傘を返すまでに要する時間の違いを基にそれぞれの考えを整理して板書する。

○集団の一人一人が気持ちよく生活するためにきまりを守ることの大切さを多面的・多角的に見出せるように、おばあさん以外の傘を使いたいと思った人の視点を提示し、傘がないことを知った際の気持ちを問いかける。

○自分の状況によっては、きまりを守ることが難しいという人間としての弱さに気付けるように、いかなる状況でも早く傘を返す行動ができることの可否を問いかける。

○周囲の人の立場に立ち、きまりを守ることが大切であることに気付けるように、みんなで使う物を借りた際の望ましい返し方やその理由を問いかける。

○本時のねらいに関わる日常生活の場面を具体的に想起できるように、身の回りにある公共物を利用した経験を問いかける。

○よりよい自己の生き方についての思いや願いを明確にできるように、学習を振り返り、自己の生き方を学習プリントに記述するよう促す。

評価項目

周囲の人の立場に立ち、きまりを守ることについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えたことを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント (2)>

○これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてた子どもを賞賛する。

指導計画（全1時間）

ねらい	<p>周囲の人々が気持ちよく過ごすための公共物の利用の仕方について、おばあさんや傘を持たずに駅を利用した人の立場から話し合うことを通して、周囲の人々の立場に立ち、きまりを守ることの大切さに気づき、実践しようとする態度を養う。</p>
教材	<p>黄色いかさ（東京書籍）</p>
主題構成	<p>公共物である駅の傘の望ましい借り方について、子どもたちが考える傘を返すまでに要する時間を対比しながら、おばあさんや傘を持たずに駅を利用した人の気持ちに目を向けて考え、みんなが気持ちよく良好な社会生活を営めるように、周囲の人の立場に立ち、きまりを守ることが大切であることに気付けるようにする。</p>
本時	<p>○日常生活の中で公共物を利用する際に気を付けていることについて発表し合い、教材から課題「おばあさんのように困る人がいなくなるためには、大助はどのように傘を借りるとよかったのだろう」をつかむ。</p> <p>○自分の考える公共物の借り方と主人公や友達の考える公共物の借り方とを対比しながら、周囲の人の立場に立ち、きまりを守ることの大切さについて話し合う。</p> <p>○学習したことを基に自己の生き方を振り返り、これからの自分の生き方を学習プリントに記述し、発表し合う。</p>
他の教育活動との関連	<p>・学校生活や校外学習等，日常生活の中で，公共物を利用する場面。</p>